

2017年 アジア選手権大会 審判報告書

2017年6月13日（火）～6月21日（水）

笹田 健一

◎審判実務

6/14（水） 審判会議
出欠確認後10分程度で終了（旅費等の支給など）

6/15（木） 女子個人サーブル
プール戦 1回
ED Main Referee 4回
Video Referee 4回

6/16（金） 男子個人エペ
プール戦 1回
ED Main Referee 5回
Video Referee 4回

6/17（土） 男子個人サーブル
プール戦 1回
ED Main Referee 7回
Video Referee 3回

6/18（日） 女子団体サーブル 4回

6/19（月） 男子団体エペ 6回

6/20（火） 男子団体サーブル4回（3位決定戦含む）

◎ミーティング時の注意事項

- ・コントロールマークの確認
- ・ピスト周りの整理整頓をさせる。
- ・髪の高い選手でマスクから髪が出てユニフォーム・メタルジャケットの名前を隠している場合は整えさせる。
（今回は特に女子の後髪が出ていることに厳しかった）
- ・服装のチェックをすること。
- ・試合後のサリュウーのとき、マスクをちゃんと手に持って行わせる。
- ・プール戦では、選手とコーチのゾーンをしっかりと区切る。
- ・試合後スコアシートを種目担当のDTの人に持っていく。

◎審判委員の流れおよび大会の感想

3月中旬にアジアのレフリーコミッションである Mr. Eyad から指名の連絡をいただいた。

今大会はソウルGPに続き2回目の国際大会ということもあり、多少の気持ちの余裕はあったが、アジア選手権ということもあり気を引き締めて臨んだ。本大会は3種目の個人・団体で6日間の日程であった。

宿泊についてもインドネシア人の Edi Suwanto とルームメイトになり、シングルであったソウルGP大会とは違った。

担当する種目は、試合の前日に F I E レフリーコミッションの Ms. Olga から翌日のスケジュールがメールで送られ、出発時間・ミーティング時間・担当種目などが決まる。

初日は女子個人サーブル。2日目に男子個人エペ。初めてエペをジャッジすることになったので、ルールブックを何度も読み直しルールの確認をした。

試合会場は20ピストくらいあり、カラーピスト以外は審判器とピスト、ピストとピストの距離が非常に近く、特にエペの試合では床や審判器を突いたのかなどの判断が難しくとてもジャッジがしづらかった。

最終日の男子団体サーブルでは、3位決定戦をスペインの Vazques とペアでジャッジすることになり、Vazques とはソウルGPから何度もペアを組んでいたので安心してジャッジをすることができた。

試合会場以外では、他国レフリーとのコミュニケーションをとり、韓国の Sang Won 香港の Geraldna など毎晩のように夕食を兼ねた情報交換会をすることができて大変勉強になった。

大会に参加するたびに国際審判員として勉強になることが多くある。

特にジャッジの動作、試合中の選手に対しての言葉掛けなど試合をスムーズに進めるために配慮されていることなどが理解できた。

今回得られた経験を国内大会で発揮するとともに、また今後も国際大会に指名していただけるように頑張ります。

